

令和5年10月16日(月)開催
鏡野町行政評価外部評価委員会

かがみの創生総合戦略・地域再生計画

(議事録・要点記録)

【人口の現状】

事務局：	資料1の【人口の現状】について説明 ⇒ 質疑なし
------	--------------------------

【総合戦略】

基本目標1 安定した雇用を創出する

- ①農林水産物を核とした6次産業化や農工商連携による農林水産物の成長産業化
- ②創業・起業等の包括的な支援による雇用と新産業の創出
- ③地域資源の活用・連携による新たな地域ブランドの創出
- ④新規就業の促進・定着支援と地域を担う人材育成
- ⑤競争力の高い農林業生産体制の強化と畜産基盤の強化
- ⑥観光資源の活用

委員：	エコツーリズムルート、新規就農者数、新規創業・起業件数は評価「◎」で非常に効果があったということになるが、実際に新規創業によって新たに生まれた雇用数、そのあたりどのような状況か。
事務局：	新規創業に伴う雇用者数について、今一番多いのが個人で創業される方ということで、雇用数が大きい企業は最近できていない。ほぼ起業者数に準じた人数と承知している。
委員：	9件だったら9人といった意味合いか。
事務局：	株式会社等については若干プラスの人数があるが、それほど大きい企業というのは今のところはない。
委員：	達成度ということからすれば、ルールに従って「◎」になるが、基本目標の15歳以上の就業者数を約5,600人に維持するということからすると、業から外れていく、辞めていかれる方と比べてこの数字というのはどう評価したら良いか。要は、どれだけ辞めていかれる方がいて、それに対して

	<p>起業者は年間10人という数値で、この10人というのは決して少ない数値ではないと思うが、どう評価したら良いか。</p>
<p>事務局：</p>	<p>廃業される人数というのは全く町の方では把握できていないのが実情であるが、今の新規創業については、商工会に加入することを一番の原則、条件としている。</p> <p>商工会の加入者数は全国的に減っている状況である中、鏡野町においては新規創業の恩恵もあると思うが、徐々に増えているという状況である。</p>
<p>委員：</p>	<p>実際の効果がどうなのか見えにくい。確かに総合計画でも商工会の会員数が増えているという話が出ており、それ自体は非常に良いことだと思うが、雇用数というのはそういう利用者ばかりではなく、町内に本社がない企業、事業所みたいなところによるものもあるはず。全体として雇用者、町内の雇用者の状況についてもう少し分かりやすい説明がないか。</p>
<p>事務局：</p>	<p>ご意見のとおり、商工会以外のものもあると思う。そうした数の把握というのが難しいところで、全町的に洗い出すような形を考えていけたらとは思っている。</p>
<p>委員：</p>	<p>有効求人倍率も町レベルでは出てこないから、実際の雇用状況がどうかという数字や、リアルな状況把握というのは、現状では、行政において難しいということになるか。</p>
<p>事務局：</p>	<p>商工会と連携して、人材マッチング事業というのを実施している。雇用側と働きたい方とのマッチングをしているが、それが結局商工会の関係が主になるため、町全体のことはならないという実情はあると思う。</p>
<p>委員：</p>	<p>町としては雇用状況について有効求人倍率がどう動いているかとか、全体の雇用者数や、個人就業者数が今後どう動くかということについては、どう見ているか。</p>
<p>事務局：</p>	<p>今の商工関係だけになるが、県北の雇用関係の数値について信金さんから頂けるものがある。その他のものについては、別途調査をして把握するという状況となるため、全体としては掘れていないという状況である。</p>
<p>委員：</p>	<p>町としてはどう判断するか。</p>
<p>事務局：</p>	<p>最終的には必要だと思う。</p>

<p>委員：</p>	<p>新しく鏡野観光局というのが出来上がったが、その一番大きな目標が交流人口の増加であり、いかに鏡野町に来ていただくかというのが一番大きな問題である。</p> <p>その中でこの前、第1回目の戦略会議という形で町長を交えて、色々なお話をさせていただいたが、その中で一番の問題点は、鏡野町というのは全国的な知名度がほんとに少ないということである。</p> <p>沢山いいところがあるというのが鏡野町の人も良く分かっていない。</p> <p>もっともっと勉強して、我々も勉強して行って、鏡野町これだけいいところがありますよというところを、県内外でなくて、いわゆる外国の方にも発信するという、知名度を上げるというのが一番でしょうねという話に最終的にはなった。</p> <p>私は商工会の会長もしながら、観光局の会長という辺も踏まえて、町内全体がもっともっと発信力を出すため、なんとかいい方法はないものだろうか、これからも勉強していきたいと思う。</p>
<p>委員：</p>	<p>雇用状況の話だが、確かに数字としては把握しにくい。先日民生委員の集まりがあり、フードバンクに協力してほしいという話があった。集まってきても、需要が多く、足りなくなっている、という話があった。雇用と直接は結び付かないかもしれないが、そういったことを把握できるようにするのも必要ではないかと思った。</p>
<p>委員：</p>	<p>景況感というのは、統計の数字を見たら特に市町村レベルになると出てこないことが多く、掴めない。だが、同時に街角の景気の動向とか肌感覚の景況感とか、そういうのは特に地元で経済活動されてる方、あるいは今フードバンクで社会の前面に出てらっしゃる方は肌で感じてるはず。そういう肌感覚というのを行政の方も触れる機会も多いと思うので、町として景気の動向をどう感じているのかとか、そもそも町の状況は良いのか悪いのかっていうのを掴んでもらわないと、特に計画を評価する我々も困ってしまうところもあるため、そこはよろしく願います。</p>

基本目標 2 子育て世代に選ばれる環境づくり

- ①新婚・子育て世帯の定住に向けた経済的負担の軽減
- ②延長保育促進、一時預かりによる就労形態の多様化に対応した子育て支援
- ③女性が活躍できる環境の整備と子育て世代の仕事と家庭が両立できる働き方の実現に向けた支援
- ④結婚、妊娠・出産、子育ての悩みの解消に向けた相談・支援体制の充実

委員：	合計特殊出生率が令和4年1.77に下がり、「子育てしやすい町だと思っている町民の割合」が5.2ポイント下がっている。少なくとも合計特殊出生率については、何かの政策の反映というよりも、コロナを踏まえた諸々の事情の結果として出ているため、単年度の数値として、増えた・減ったという話をしても仕方がないのかなと印象も受けるが、これをどう見ているか。
事務局：	ご意見のとおり、子育て施策の指標全般がそもそも一事業によって動くものではないという側面もあり、長期的に見ることが必要である。ただ、総合戦略における7年度の目標とはいえ、単年度の数値も毎年公表されることから、毎年測定し、分析した結果として何か要因など分かることがあれば対策を打っていけるのではないかと考えている。
委員：	現状、その合計特殊出生率が傾向的に下がると町が見ているとすれば、それはその対策を取らなくてはならないと思うが、そこはどう見ているか。
事務局：	子供の数、出生数を増やしていきたいというのは当然の前提と認識をして事業を行っているため、減っていく前提の中にあるというよりは、いかにして上げていくかというベクトルで考えていきたいと思っている。
委員：	町全体の計画だが、鏡野町は非常に広いわけで、もう少し地域に密着したような形での計画を作るとかいうことにはなっていないのか。 元々4つの町と村が合併した鏡野町ということで、そういった単位で考えた方がいいかと思うが。

事務局 :	<p>ご意見のとおりと思う。町の北部地域と南部地域でやはり事情も違うということもあるため、例えば町民アンケートにおいて地域別に皆さんがどんな思いを持っているか等、そういった形で把握はしているが、計画として地域別な計画というのは今のところ総合計画、総合戦略においてはもっていない。</p> <p>ただ、これから各種計画を策定していく中で、地域ごとの事情ということも十分考慮していくべきだということもあるため、今後新たな計画等策定するときには、そういったことも踏まえて策定していきたい。</p> <p>ただ、総合計画を策定する際には、各地域の公民館単位で町長初め、特別職を含めて地区に出向き、意見交換会を行っている。地域のお声をまったく拾ってないということではないということはお伝えをしたい。</p>
委員 :	<p>人口という話になると、やはり子育ての話が出てきて、そうすると北の方と南の方は、学校がある・ないを含めて様子が全然違う。</p> <p>人口が減るのが止まっていると言っても南の方は増えて、北は減ってるわけで、そこら辺も町づくりにどこまで落とし込まれるような形で考えていく必要はあるなど、問題意識の中で持っていてもらいたいという風に思う。</p>
委員 :	<p>子育てしやすい町だと感じている町民の意見が、これまでが多かったということだが、それが周りの市町村が充実してきたと。それにより段々とそのように感じなくなったという評価をしているという認識でよろしいか。</p>
事務局 :	<p>ご質問のとおり。子供医療費補助事業など、他の町に先駆けて取組を始めたものがかなり有り、それについて、高評価を住民様から頂いているということは、アンケート等からわかっている。実際に町民アンケートの自由記載欄でも、「子育てするなら鏡野か奈義に行きたいよねと話をするんです」という声もあったりして、相対的に優位だったということは間違いないかと思う。ただ、やはりどの町も子育て関係が大事という風に視線が向いてきているため、新たな取り組みが他の町でも進んできた。結果として、鏡野町が悪くなったというよりは、周りがどんどん頑張ってきて、相対的に同じようになってきたという解釈をしている。</p>

<p>委員 :</p>	<p>近隣の方や市役所の方に、鏡野町は充実していて住みやすいし、子供を大きくするのにとても良い環境じゃないですかという話を聞く。鏡野町はまだまだ充実しているのではないかと感じている。そういう気持ちで頑張ってもらいたい。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>補足だが、近隣の市町村でも出産祝い金の支給といった取組が、鏡野町よりもしっかりとされてるところも出てきているとは感じる。鏡野町は、子育て支援に関する専門職として、保健師の他に、心理士や理学療法士といった、他の市町村では見かけない専門職がしっかりと子育てに寄り添った支援が出来ていると思っている。</p> <p>子育て支援センターでは、孤独になりがちな子育て家庭の集いの場を提供するといったことがしっかり出来ており、これは鏡野町の強みだと思っている。</p> <p>そういった良いところを、上手にPR出来れば良いと考えているが、情報の発信力が弱く、どうやって発信していけば良いのかという部分で課題を感じている。</p>
<p>委員 :</p>	<p>色々と議論があったが、町の充実しているところは町民に支持されているということもあろうかと思う。</p> <p>発信力を強めることも必要であるし、そもそも鏡野町の社会増減率がプラスマイナス0のような状況になっているのは、やはり南部の産業集積、あるいは津山圏域の人の動き、それによって支えられているのは明らかであるため、南と北の状況を一緒にたにして、人口をどうこうっていう話をするのは、問題点を見えにくくしているのではないかという指摘も、まさにその通りかと思う。</p> <p>ではこの部分の議論はここまでということで。</p>

基本目標 3 新しい人の流れをつくる

- ①移住希望者への支援体制の促進
- ②特産品の開発・エコツーリズムの推進による交流人口の増加
- ③スポーツ合宿等の推進

<p>委員 :</p>	<p>文化・スポーツ合宿招致数は、行動制限が緩和されて件数も増加しているという説明だが、今年度の見込み数は。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>これからコロナが明け、需要は増えていくであろうという話はしている。この制度は平成28年から始まっており、今までの最高の利用は、平成30年である。</p>

<p>委員：</p> <p>事務局：</p>	<p>その時は22件ということで、150万円ほどの補助金交付を行い、人数的にも1,000人を超えたが、それからだんだんコロナで減ってきたという状況である。</p> <p>実を言うと、昨年度までこの事業をするにあたり、利用施設は国民宿舎いつきというのが大半を占めていた。これが昨年11月末で閉鎖をしたため、今年度についても、今年の件数には満たないだろうと見込んでいる。</p> <p>よって今後これが目標通りにいく可能性は低いという状況である。現在は新たな宿泊施設についても検討している。</p> <p>国民宿舎の廃業ということに関して、新たな宿舎を探すという形で対応策を練ってるということか。</p> <p>新たな施設を探すというより、新たな施設を町として検討しているということである。</p>
------------------------	--

基本目標4 住み続けたい魅力あるまちをつくる

- ①移動しやすい交通体系の整備
- ②支え支えられる地域連携の推進
- ③地区公民館講座の開設
- ④ふるさとづくりの推進
- ⑤保健・医療・福祉の推進による健康の確保
- ⑥安全・安心な居住環境の整備
- ⑦快適な居住環境の整備と再生可能エネルギーの活用

<p>委員：</p> <p>事務局：</p>	<p>数値目標のところで、町営バス・乗り合いタクシー乗車人数の現状は10,000人、目標値は14,000人ということだが、実績がコロナなど色々な要素があると思うが、令和4年度で7,000人余りということである。タクシー助成制度を設けたことも要因ではないかということだが、これだけ目標値と実績が離れている状態の中で、何らかの今後の見通しというか、今後何か追加で政策を打っていくとか、その辺の考えなどについて、今の思いを聞かせてほしい。</p> <p>(タクシー利用助成制度について総合福祉課より説明)</p> <p>令和3年度の途中から、高齢者の方を中心に、コロナ禍ということもあり始めた事業である。</p> <p>そちらの方で、約660名の方が登録されて、利用されているということで、少なからずバスの利用には影響を落としている。</p>
------------------------	---

委員 :	<p>乗り合いタクシーには民間タクシー分が含まれていないということでしょうか。</p>
事務局 :	<p>そのとおり。</p>
委員 :	<p>だからその部分は民間の方に行ったということでマイナスに働いていると。</p>
事務局 :	<p>この総合戦略が出来た時にはまだこの制度がなかったため、本来はここに足すべきものではないのではとも思う。 例えば600人丸々乗ったとしても、14,000人に対して7,000人というのはやはり少ない。 延べ人数でありため、600人の方が3回乗れば、1,800人プラスということになる。</p>
委員 :	<p>それを含めて、全体として地域交通の利用状況がどうなっていると町の方では見ているか。</p>
事務局 :	<p>この実績値にタクシー助成の延べ人数を加えた数字が、全体の目標値に達しているかという質問でしょうか。</p>
委員 :	<p>要はこれだけだと半分以下で、何もやってないではないかということになるが、タクシー助成制度を実施して、それで地域の足としての公共交通を町としてどう確保しているかということの評価しようと思ったら、その部分を足し合わせないと分からない。よってそれを、町としてどう見ているかというのが知りたいということである。</p>
事務局 :	<p>9月実績として、利用回数が924回であり、仮に延べ人数を900人としても、それに12か月をかけると、1万を少し上回る数字が出る。合わせると14,000人は超えることになる。</p>
委員 :	<p>政策的に言えば1万人以上の交通、公共交通による足の確保が出来ていたのではないかとということで了解した。細かい数値でもあるが、効果が出ていると町民は見るべきなのか、やはり厳しい状況だと見るべきなのか、そこは明らかにしておいた方が町としてもよいだろう。</p>
事務局 :	<p>総合政策室の方も、この指標を額面通りに集計しているということもあり、リンクしている部分を見逃してしまっているということもある。 今回ご指摘をいただいたため、今後はこのKPIだけではなく、KPIと関連する部分も踏まえた形になるように検討していきたいと思う。</p>

委員 :	<p>目標値が14,000人で実績が7,000人ということで、今日は評価委員会のため、この数字を評価した場合、それはかなり悪い数字になるわけだが、個人的な話になるが、私は町の一番北におり、他に足がない状況である。</p>
	<p>7,000人という数字は、それだけの方が利用されているということでもある。目標の数値が果たして良いのか悪いのかというその検証も必要かと。</p>
	<p>現実に使われている人が、唯一の足になるものなので、やはりこれは考え方を改めてやっていくべきかと思う。</p>
委員 :	<p>ひとつは、目標の数値に対して、7,000人で使われていないではないかと。</p>
委員 :	<p>目標の数値が多いのではないかという考え方もある。</p>
委員 :	<p>目標未達成をもって減らせとか、そういう結論に至ってはいけないということ。</p>
事務局 :	<p>もちろん、この指標の達成如何を問うて、この事業をやめるとい問題ではない。むしろ利用者が少ないということは、使いやすい体系に変えていくということも必要ではないかということで、公共交通計画等にも反映させていくことが必要ではないかと考えている。</p>
委員 :	<p>公共交通計画は作っているか。</p>
事務局 :	<p>作っている。</p>
委員 :	<p>介護関係だが、要介護認定率は県平均より2.6ポイント低くするということがここには載っている。健康の町かがみのというのが一番前面に出て全国に発信中と思うが、総合事業としてやっている中の介護予防というのは、具体的にどういことをやっているかという説明を。</p>
事務局 :	<p>まず一番皆さんがお耳にされているのが、「ハツラツサークル」で、地域で毎週集まって体操をしていただいている。現在57地域で進んでいる。これは地域の活動となる。介護認定に至る前の方についても、「ヘルサポかがみの」であるとか「ガンバランドかがみの」、こういったもので通所型サービスや訪問型のサービスを、一部介護保険のサービスに近いような形で提供している。ただ、こういったものに限らず、地域の方がウォーキングをされたりとか、地域で声をかけあって元気で住まわられてい</p>

	<p>たりとか、こういったことも多く目にするため、やはり意識の部分では、大変高いのではないかと思っている。</p> <p>裏に返すと、介護認定を受けずに何とか家で頑張りたいというところで、数字的にも鏡野町は在宅サービスに使われる介護のお金の方が多いというのが出ている。その地域で何とか頑張っていきたいという思いなのだろうというのが、その数値からも出ている。</p> <p>委員： 公共交通、その町営バスと乗り合いタクシーで、みんなが乗るのは、これにプラスして中鉄バスや津山ごんごバスなど色々な形があると思う。</p> <p>それを全体として出して、その中で鏡野町がやっていることはどうなっているのかという形でないと全体像が分かりにくい。増えているのか減っているのかも分かりにくいので、そこは工夫してもらえたらと思う。</p> <p>委員： 住み続けたいという方が20代は60%で、他の年代に比べて少ないと記載があるが、20代の人たちが出ていった後というのは、人口の社会的な動態というのは、動きが急に鈍くなってくる。</p> <p>だから、20代・30代前半の方が出ていかない、あるいは出ていったあと戻る、あるいは来るということが、人口の構成の変化をもたらすポイントになることからすると、若い人たちの参画をせつかく前回の総合計画で工夫したわけなので、それを引き続きやっていくことが必要。雇用の問題だけではないと思うが、雇用があってもそういうところが旧態依然では駄目だと思う。やはりこの部分も工夫の余地があるのではないかと思う。</p> <p>委員： 住み続けたい割合というのが、現状値87%に対して、令和4年86%。目標に対しては少ないが、この目標値は令和7年のもの。現状で達成できてないことをもって即達成状況が悪いという意味ではないのでは。</p> <p>要するに、令和4年の時点でこれが△でも、ほぼ現状値を維持してるのかなと考えて、それをあまりマイナスにとらえてはいけないかと思う。</p>
--	---

横断的な目標 1 多様な人材の活躍を推進する

委員 :	<p>総合計画作るときに、地域ごとの意見、そして若い人に意見を聞いたと思う。そういった若い人が、この計画を作った後にどう評価しているのかも、一度聞いてみると良いのではと思う。</p>
委員 :	<p>私も実は同じことを感じている。総合計画を作るときに、若い人たちの意見をあれだけ反映させようとされたが、その後、どういう風になっているのだろうか。</p> <p>それから、色々な町民の方にご参加いただいているが、やはり全体としてどうなっているのだろうかというのは関心があること。横断的という形になっているため説明には無いが、その辺を付け加える形で説明してほしい。</p>
事務局 :	<p>実際に策定をした総合政策室が直接モニタリングといった形で地域に足を運ぶということが今のところは出来ていないが、それに代わるものが毎年実施している町民アンケートと考えている。毎年1,000人の方を無作為に選ばせていただき、年代別、地域別に人口の比率と合うように設定して抽出し、お願いをしている。町全体の方から満遍なくご意見をいただきたいという意図で取り組んでいるものでもあるため、声を聴いているというところでは、町民アンケートがお答えになろうかと考えている。</p> <p>町民アンケートの結果は施策において地区別、年代別の評価をしているため、これによって住民の声を反映して改善をしていっているものと考えている。</p>

横断的な目標 2 新しい時代の流れを力にする

委員 :	<p>マイナンバーカードは信用していないので、マイナンバーカードに特化して出さない方がいいのではないかな。</p> <p>国はSociety5.0などと言っているが、例えば車の自動運転だと、10年くらい実用化はないだろうが、20年、30年経つと分からない。</p> <p>本当に自動運転が実用になれば、この公共交通の形がガラッと変わると思う。そういう部分でマイナンバーカードに特化するのではなく、他のデジタル化も今から研究していった方がいいと思う。</p>
------	--

【地域再生計画】

第2期かがみの創生総合戦略推進計画

<p>委員 :</p>	<p>企業版ふるさと納税の目標額いくらに対して、どれだけ集まっているか、今後どうなのかというところが評価の判断のポイントとなる。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>地域再生計画の5ページに寄付金額の目安が6億円と記載があり、検証シートの内容と相違があるが、これはどういうことか。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>この目安を超えると寄付を受けられなくなるため、地域再生計画の方はあえて大きな金額を上げている。 実際はそこまではないだろうと思うが、ところによっては、たくさん大きな企業から受け取る場所もあるため、そういった前例を見て、高い金額に設定している。</p>
<p>委員 :</p>	<p>この数字をもって達成してないではないかという考えにはならないということと理解した。4年度に200万円、5年度に200万円だから、この計画上は400万円集まれば計画達成ということでしょうか。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>インセンティブは、1年間で200万円を超えないと付与されないということを踏まえ、1年間で200万円以上としている。</p>
<p>委員 :</p>	<p>インセンティブとは何か。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>評価結果の③のところに記載しているが、今年度からデジタル田園都市国家構想交付金を受け、観光の事業を行っている。内閣府からの交付金の期間は3年間で上限だが、それが5年間に延びる。事業費の1/2補助だが、それが3年間しかなかったものが、5年間対象となる。 よって、令和5年度からの3年間のうちに、一年でも200万円を超せばインセンティブを受けられる可能性があるということである。4年度については200万円を超えているが、これは今回のインセンティブとは別物になる。</p>
<p>委員 :</p>	<p>5年度は今のところどういう状況か。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>現在1件頂いているが、金額は非公表を希望されているためこの場でお伝えはできない。</p>

委員 :	<p>単体が多く出してくれるなら達成するかもしれないが、去年3件で350万円だったら、1件だったら足りないかもしれない。現状で頑張らないといけない現状だと。</p>
委員 :	<p>どの辺の、どのような業種の企業か。</p>
事務局 :	<p>昨年度3件中、2件は公表して良いということで、株式会社ウエストエネルギーソリューションさん、それから株式会社NTTデータ中国さんから寄付を頂いている。</p> <p>金額はいずれの会社さんも非公表希望のため内訳はお伝えできないが、そのうちウエストエネルギーソリューションさんとNTTデータさんからいただいたものについては、安定した雇用を創出する事業や住み続けたい魅力ある町を作る事業、こういったものに充当させていただいた。</p> <p>どういった事業に充当してほしいかを寄付の時にお伺いし、その事業に充当するようにしている。</p>
委員 :	<p>国が交付金を払うのが嫌になって民間企業に出せるところは出せという施策かと。</p> <p>これを増やすためにどういう取組をしているか。</p>
事務局 :	<p>昨年始まったばかりで勉強中ではあるが、今年度行っていることは、昨年寄付いただいた企業の方へお礼、実績の報告、それから今年度の寄付の依頼、またパンフレット、チラシを作って、説明をさせていただくなど。また、町長、副町長から県人会等でトップセールスをしてもらったり、会場に設置されているブースにチラシを置いたりなど。</p> <p>また、本社が鏡野町にある会社からは寄付を頂けないため、本社が町内にない企業が多く所在する津山の流通センターでセールスをさせていただくことを考えている。現在はこういった企業に訪問するかなど、そういった掘り起こしをしている状況。</p>
委員 :	<p>戦略KPIというのはどういうことになるか。</p>
事務局 :	<p>シート中の「意図」や目標値200万円に対して325万円、相談件数5件に対して5件など、そういったところを見てもらえたら。</p>
委員 :	<p>KPI達成に有効であったかという話だが、実際に有効であったかどうかは分からないが、少なくとも達成は出来たとこれを解釈するのであれば、数値的に出来ているため、これは「有効であった」でよろしいかと。</p>

【その他】

委員：	年齢もそうだが、町の北部と南部で地域差がかなりある。アンケート等の結果もその傾向が分かると評価・検討もしやすいと思う。そこら辺の工夫ができているとありがたい。
-----	---